

14. フィルダム工事

14-1 監査廊

(1) 厚さの測定状況（頂版）



撮影方法

- 測定箇所はもちろんのこと、全体の形状も確認できるアングルとする。
- マーキングを行い、測定位置がわかるようにする。
- あて木・ピンポールなどをあて、測定値を明確にする。

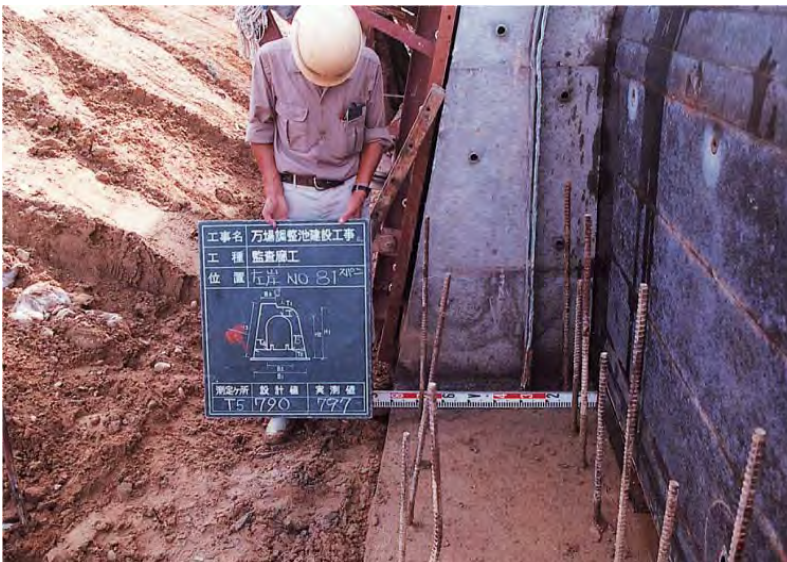
黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法
- 構造物の略図を記入し、測定箇所を表示する。

留意事項

- 測定箇所が不明瞭であり、あて木・ピンポールなどをあてて測定する。
- スタッフを垂直に立てて、目盛を読みやすくする。
- 黒板が傾いている。
- 構造物の略図を記入し、測定箇所を表示する。

(2) 厚さの測定状況（上流側壁）



撮影方法

- 出来形寸法が正確に確認できるようなカメラアングルで撮影する。
- スタッフなどを正確に設置し、ピンポールを垂直に立てて撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法
- 構造物の略図を記入し、測定箇所を表示する。

留意事項

- ピンポールなどをスタッフの実測寸法にあてて。
- カメラのアングルを低くして、できるだけ目盛の正面で撮影する。
- 黒板の略図に測定箇所を赤などで表示する。
- 鉄筋の曲がりを修正して撮影する。

14-1 監査廊

(3) 厚さの測定状況（下流下側）



留意事項

- 鉄筋の曲がりを直すなど、撮影の支障となる物を整理する。
- 測定対象の構造物の右側が黒板で隠れないようにする。
- 立会者があて木・ピンポールなどを用いて、実測寸法箇所がわかるようにする。

撮影方法

- 撮影部位が全体のどこに位置するか、明確になるようにする。
- 測定位置にマーキングして、実測値がよく読みとれるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法
- 構造物の略図を記入し、測定箇所を表示する。

(4) 厚さの測定状況（底板）



留意事項

- 鉄筋に付着する余分な物を除去するなど、撮影の支障となるものを整理する。
- 底面上面にあて木・ピンポールなどを用いて、実測寸法がわかるようにする。

撮影方法

- 測定箇所はもちろんのこと、背後の連続性も確認できるようなアングルで撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法
- 構造物の略図を記入し、測定箇所を表示する。

14-1 監査廊

(5) 型枠確認状況（頂版）



留意事項

- サポートが前にあって、スケールが読めない。
- スタッフなどを用いて、実測値が読めるようにする。
- 撮影箇所の背後を整理する。

撮影方法

- 型枠の組立完了後、全体寸法や勾配のほか鉄筋のかぶり状況がわかるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法を記入する。

(6) 配筋確認状況



留意事項

- 鉄筋径を区分できるように色分けしたマグネット等を鉄筋に付けてわかりやすくする。
- リボンロッドにピンポールなどをあてる。
- リボンロッドを十字におき、配筋の状況がわかるようにする。

撮影方法

- 配筋の状況がわかるように撮影する。
- 鉄筋の間隔等がわかるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 鉄筋間隔・径
- 構造物の略図を記入し、測定箇所を表示する。

14-1 監査廊

(7) 掘削断面の出来形確認状況

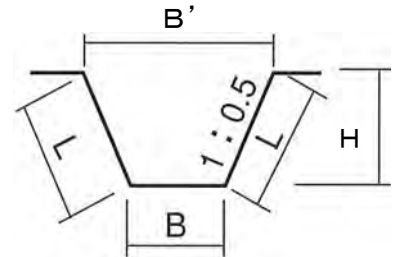


留意事項

- スタッフの目盛りが確認できないので、幅の広いロッドを用いてアップの撮影もする。
- あて木・ピンポールなどを用いて、測定箇所がわかるようにする。
- 黒板を前におき記入内容がわかるようにする。

撮影方法

- 測定位置がわかるように測定杭を入れて撮影する。
- 施工範囲全体がわかるように撮影する。

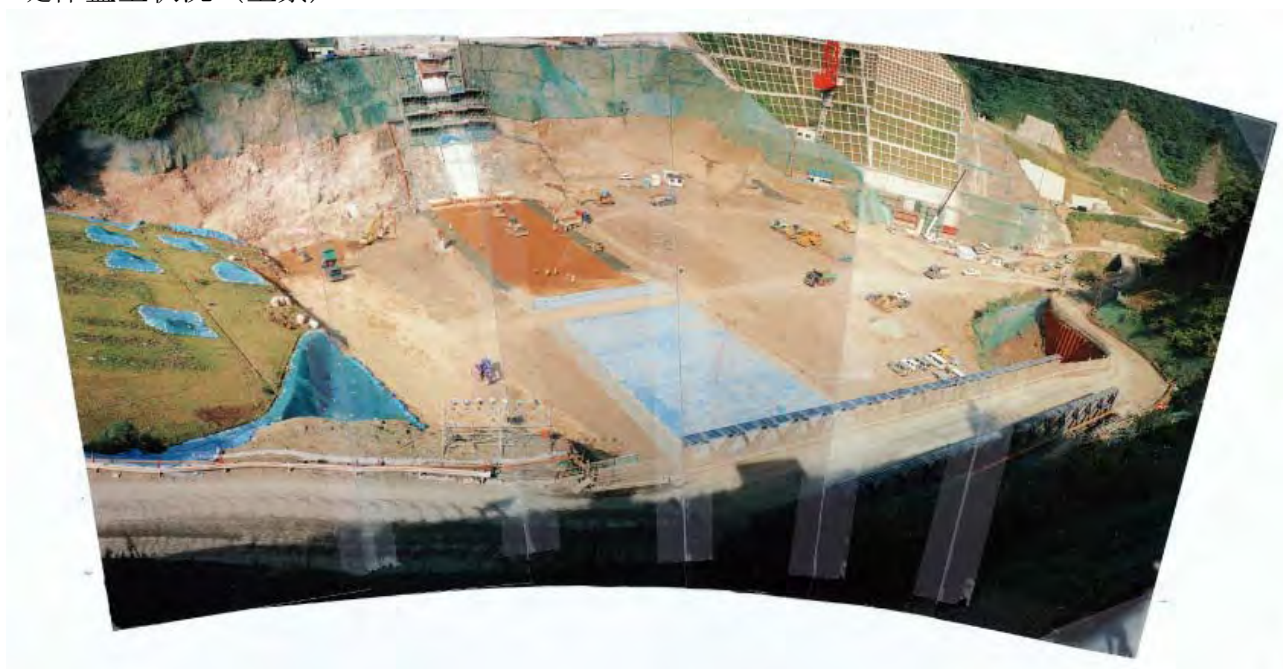


黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法
- 断面略図を記入する。

14-2 堤体盛土

堤体盛土状況（全景）



撮 影 方 法

- 施工時期、出来形等の進捗状況を把握するために撮影する。
- 工事規模、工期により、週1回、月1回などと期日を決めて全景を撮影する。

留 意 事 項

- 定点での出来形写真は、定位置、定方向、同一焦点レンズのカメラで指定日に撮影し、工事の進捗と各工区の状況を記録するものであり、工事全体の判定にも利用できる。
- 全景写真として1コマで撮影できないときは、連続写真を継ぎ合わせるものとする。

14-2-1 堤体盛土（ゾーン幅測定状況）

（１）遮水ゾーン



留意事項

- 測定杭を入れて、測定位置がわかるようにする。
- 測定範囲が長い場合は、目盛がわかるように起終点のアップも撮影する。
- 起終点にポールを立て、有効幅の境界がわかるようにする。

撮影方法

- 測定位置がわかるように、測定杭を入れて撮影する。
- リボンロッドを使用する場合は、立てて使用し、適当な張力を与え、たるませないようにする。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置（盛立標高、上下流の区別等）
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法を記入する。

（２）フィルターゾーン



留意事項

- リボンロッドの中を持ち、たるませないようにしている。
- 背景もできるだけ取り入れ、測定箇所が確認できるアングルである。

撮影方法

- 測定箇所はもちろんのこと、背後の状況も確認できるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置（盛立標高、上下流の区別等）
- 設計寸法・実測寸法を記入する。

14-2-1 堤体盛土（ゾーン幅測定状況）

（3）トランシジョンゾーン



留意事項

- 起終点がわかるようにリボンロッドを用い、正面から撮影する。
- 背景もできるだけ取り入れ、測定位置が全体の中で特定できるようにする。

撮影方法

- 測定箇所の起終点をはっきりわかり、リボンロッド等で有効幅の実測値が確認できるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置（盛立標高、上下流の区別等）
- 設計寸法・実測寸法を記入する。

（4）ロックゾーン



留意事項

- 起終点がわかるようにリボンロッドを用い、正面から撮影する。
- 検尺の正面から撮影し、ロック材の大きさや斜面の勾配がわかるようにする。

撮影方法

- 出来形寸法はもちろんのこと、周囲の状況が確認できるようなカメラアングルで撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置（盛立標高、上下流の区別等）
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法を記入する。

14-2-2 堤体盛土（遮水ゾーン盛土作業状況）

（1）ブレンドパイル（ストックパイル）状況



留意事項

- ☐ 全景はよく撮れている。
- 作業に必要な重機が配置されていないため、作業状況がわかりにくい。
- 黒板を入れて作業内容が確認できるようにする。

撮影方法

- 施工前、施工中、施工後の全体がわかるように撮影する。
- 仮設物は施工上不要になった時点で撤去されるため、設計変更等に留意して撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 作業内容
- ブレンドパイル名、混合比率（厚さ又はダンプ台数等）
- 作製方法（まき出し厚等）、混合方法（ブル押し混合又はバックホウ掘削混合）
- 粒径分塊・最大粒径を記入する。

（2）スレイスブレンド混合・攪拌状況



留意事項

- ☐ 重機の配置状況はわかりやすい。
- 説明がないので混合・攪拌の作業工程がわからない。
- 黒板を入れて作業内容が確認できるようにする。

撮影方法

- 複数の機械が稼働している場合、それぞれの機種と作業状況がわかるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工位置
- 作業内容
- ブレンドパイル名
- 粒径分塊・最大粒径
- 使用機械名・規格
- 攪拌回数を記入する。

14-2-2 堤体盛土（遮水ゾーン盛土作業状況） （3）積込・運搬状況



留 意 事 項

- 機械が重なっているので、それぞれの機械がわかるように右側に移動し、機械の横側からのアングルで撮影する。

撮 影 方 法

- 工種及び種別毎の作業状況、使用機械がわかるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 作業内容
- ブレンドパイル名
- 使用機械名・規格を記入する。

（4）荷卸し状況



留 意 事 項

- 盛土面やダムセンターが取り入れてあるため、撮影部位が全体のどこに位置するのかわかりやすい。
- 黒板を手前におき記入内容がわかるようにする。

撮 影 方 法

- 作業状況及び使用機械がわかるように撮影する。
- 背景も取り入れ、全体に対する作業状況の位置づけがわかるようにする。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工位置（盛立標高、上下流の区別等）
- 使用機械名・規格を記入する。

14-2-2 堤体盛土（遮水ゾーン盛土作業状況） （5）まき出し状況



留意事項

- まき出しがわかるアングルである。
- まき出し厚さが確認できない。

撮影方法

- まき出し厚さ、使用機械がわかるようなアングルで撮影する。
- 背景も取り入れ、全体に対する作業状況の位置づけがわかるようにする。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所（盛立標高、上下流の区別等）
- 使用機械名
- まき出し厚を記入する。

（6）転圧状況



留意事項

- 転圧前後の状況がわかりやすい。
- 黒板を入れ作業内容がわかるようにする。

撮影方法

- 転圧状況、使用機械がわかるようなアングルで撮影する。
- 背景も取り入れ、全体に対する作業状況の位置づけがわかるようにする。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工位置（盛立標高、上下流の区別等）
- 使用機械名
- 含水比・施工幅
- 転圧回数・転圧厚を記入する。

14-2-2 堤体盛土（遮水ゾーン盛土作業状況） （7）木根、オーバーサイズの石礫の除去状況



撮 影 方 法

- 作業内容と作業対象物がわかるように撮影する。
- 現場内での位置がわかるようにする。

留 意 事 項

- 作業対象物である木根、オーバーサイズの石礫を撮影するようにする。
- 木根、石礫の集積状況が確認できない。
- 作業状況がわかるように作業員に近接して撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工位置（盛立標高、上下流の区別等）

14-2-3 堤体盛土（コンタクトクレー施工状況）

（１）粘土玉作り状況



留意事項

- 黒板を入れて作業内容がわかるようにする。

撮影方法

- 作業実施状況、粘土玉も含めて撮影する。
- 全景が入るようなアングルで撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 作業内容

（２）たたきつけ状況



留意事項

- 黒板を入れて作業内容がわかるようにする。
 - 作業前・後の状況がわからない。
 - 施工範囲と平行した位置から撮影すると全体がわかりやすい。
- △ 完成後目視できない箇所は、撮影時期を逃さないよう工程計画を把握して、最も適切な時点で撮影する。

撮影方法

- 撮影部位が全体のどこに位置するかわかるようにする。
- 作業前後の仕上がり状況が確認できるアングルで撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工位置（盛立標高、上下流の区別等）
- 作業内容

14-2-3 堤体盛土（コンタクトクレー施工状況） （3）乾燥防止布張付状況



留意事項

- 黒板を入れて作業内容などがわかるようにする。
- 撮影に支障となる物は撤去し、張付状況を正面から撮影する。

撮影方法

- 乾燥防止布が適切に張付けられていることが確認できるように撮影する。
- 張付全景がわかるようにアングルを工夫する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所（盛立標高、上下流の区別等）
- 作業内容
- 布の規格を記入する。

（4）厚さの測定状況



留意事項

- 目盛りとピンポールが読めるように近接して撮影する。
- 測定箇所が中心となるようなアングルとする。

撮影方法

- コンタクトコアの厚さが確認できるように、あて木・ピンポールなどを用いて撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置（盛立標高等）
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法を記入する。

14-2-4 堤体盛土（ロックゾーン施工状況）

（１）着岩部施工状況



留意事項

- マーキングがしてありゾーンがわかりやすい。
- 全体に対する作業状況の位置がわかりにくい。

撮影方法

- 施工場所がわかるようにマーキングして撮影する。
- 作業状況及び使用機械がわかるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所（盛立標高、左右岸、ゾーン等）
- 作業内容
- 使用機械名
- 盛立仕様を記入する。

（２）まき出し状況



留意事項

- 背後の連続性がわからない。
- 現場内での位置がわかるようにする。

撮影方法

- 測定箇所はもちろんのこと、背後の連続性も確認できるアングルで撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所（盛立標高、左右岸、ゾーン等）
- 作業内容
- 使用機械名
- まき出し厚さなどの盛立仕様を記入する。

14-2-5 堤体盛土（リップラップ施工状況）

（１）リップラップ施工状況（全景）



留意事項

□全体の作業状況が確認できる。

■黒板を入れて撮影する。

△全景写真は、施工状況全体を把握する写真として重要であり、工事着手前と完成後の対比、工事施工場所の確認、周辺を把握するために必要となる。

撮影方法

- 施工前・後の仕上がり状況が確認できるアングルで撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 作業内容
- 使用機械名
- 材料仕様を記入する。

（２）張立状況



留意事項

■施工前・施工後の仕上がり状況が確認できるように左側に移動し、作業の横か斜め上の位置からのアングルで撮影する。

■黒板を入れて撮影する。

撮影方法

- 作業状況、仕上がり状況が確認できるアングルで撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 作業内容

14-2-5 堤体盛土（リップラップ施工状況） （3）最大粒径の確認状況



撮 影 方 法

- 施工後の全体状況がよくわかる位置及びアングルで撮影する。
- 全景のほか、寸法が確認できるアップも撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 実測寸法を記入する。



留 意 事 項

- 全景のほか、アップで撮影しているのでわかりやすい。
- ピンポールを用いているので実測値が確認できる。
- スケールを十字におくと寸法が把握しやすくなる。
- 人の影が黒板にかからないようにする。